

■第56回 全関西美術展

大阪市立美術館  
2010.7.6(火)~19(月・祝)

●全関西美術展賞(第一席)



「落日」田中達也(修士課程修了)

●青光社賞



「甘い賛沢」池尻篤志(修士課程2年)

- 入選  
塩野麻衣子(修士課程修了)  
今邨阿佐美(卒業生)  
城戸啓吾(修士課程1年)  
中川真一(修士課程1年)  
志垣玲奈(日本画4年)

■第63回 関西新制作展

兵庫県立美術館 原田の森ギャラリー  
2010.5.4(火)~13(木)

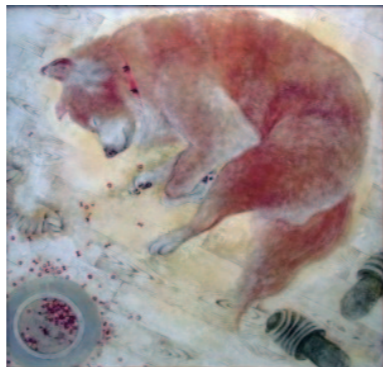
- 入選：絵画部  
岡田香織(洋画4年)  
濫川元気(洋画4年)  
垣内典子(洋画4年)  
中 将平(洋画4年)  
京極正範(洋画4年)  
川口祥大(洋画4年)  
山本良子(洋画3年)  
藤元菜那子(洋画2年)  
前原涼輔(洋画2年)  
釘宮 慶(洋画2年)  
妹尾美里(洋画2年)  
林 恭子(卒業生)  
藤岡正浩(卒業生)  
古川光優(修士課程修了)  
谷岡祐佳(修士課程修了)

- 会員出品  
絵画部：西田周司(教授)  
中村貞夫(講師)  
彫刻部：市川悦也(教授)

■第60回 西宮市展

西宮市立 市民ギャラリー 2010.7.10(土)~25(日)

●西宮市教育委員会賞(日本画部門)



「午睡」池尻篤志(修士課程2年)

●西宮市展若手奨励賞(洋画部門)



「find me」川口祥大(洋画4年)

- 入選  
立見裕一(洋画4年)  
京極正範(洋画4年)／秦弘明(洋画3年)  
山田愛(日本画3年)／高田治(修士課程修了)

■第60回 記念モダンアート展

京都展 京都市美術館  
2010.7.20(火)~25(日) ほか

●協会賞・損保ジャパン美術財団奨励賞



「Portrait」山縣武(助手) 会友/准会員推挙

●会員出品



「白い影-歳月・森へ-」加藤勝久(教授)

- 入選 一羽惇(博士課程2年)／京極正範(洋画4年)／中島彰良(洋画3年)

■第63回 全関西行動美術展

大阪市立美術館 2010.5.4(火)~9(日)／京都市美術館 2010.6.1(火)~6(日)

●大西賞 翌年度無鑑査



「えがく」新谷友佳子(修士課程修了)

●会員出品



「冬の磯-晴れ間-」高井道夫(講師)

- 入選  
二見正大(卒業生)  
中井祥子(洋画3年)

●西宮市展若手奨励賞(日本画部門)



「樹」志垣玲奈(日本画4年)

●佳作(洋画部門)



「It.」立見裕一(洋画4年)

- 入選  
京極正範(洋画4年)／秦弘明(洋画3年)  
山田愛(日本画3年)／高田治(修士課程修了)

# あーと通信

2010 Summer

宝塚大学 造形芸術学部 アート・デザイン学科 美術領域 アートニュース

No.29

## あーと通信 夏号特集 『卒業生は今何をしているの?』

本学で美術の様々な領域を専攻して学んだ卒業生の中には、現在もアートやデザインに関する様々なクリエイティブシーンで意欲的に活躍している方が多くいます。今回は、そんな卒業生の皆さんの中から2名の方がインタビューに応じてくださいました。

### イラストレーター・似顔絵アーティスト 渡邊一馬さん(2001年卒)

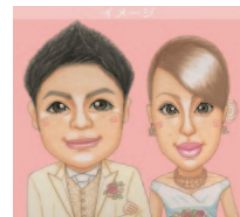


アイデアスケッチに熱中する渡邊さん

Q.卒業後はどんなお仕事をされているのですか?

A.「似顔絵をはじめ、イラストレーションを仕事にしています。」

「大学卒業後はイベント会社に属し、仕事としてはUSJやエキスポランド等で似顔絵を描いていました。5年間ほど各地で似顔絵を描き、培ったノウハウや技術を活かして現在はフリーランスでプロのイラストレーターをしています。内容は、雑誌やテレビ等の媒体に絵を描いたり、結婚式の似顔絵のウェルカムボード等を制作したりです。」



ウェルカムボードのイラスト



渡邊さんのウェブサイトに掲載されている作品のひとつ。とてもカラフルで、楽しいイラストです。

Q.宝塚大学の学生時代はどんな感じでしたか?

A.「学生時代は、すごく刺激的だった事を覚えています。学校の雰囲気や先生、友人などから受けるインスピレーションはすべてが真新しいものでした。またその中で、自分の思い描く世界を具現化し表現するのは難しいと感じていました。しかし学生時代に受けた影響が現在においても源になっている事は多々あると思います。そして在校時に知り合った友人の何人かとは今も交流がありますし、同じ様な道を歩んでいる人とは特別な繋がりが。とはいっても、学生時代、ボクはそんなに目立った学生ではなかったですけどね 笑」

Q.仕事以外でも作家の活動をしていますか?

A.「子供たちとのコラボレーションをしています」

「最近ですが、『子供達の落書きを集めてひとつの作品にしよう!』という企画をはじめました(THE DRAW HOUSE)。これは全国から子供達が適当に描いた落書きを送ってもらって、それをいくつか組み合わせひとつの作品にし、できあがった作品のレプリカ(コピー)を落書きをくれた皆さんにプレゼントしようとするもので、ほとんどボクのボランティアのようなものです。ですが、こういったことで子供達が絵に興味を持ち、人のモノを見る感性を養えることになれば嬉しい事だと思います。」



子供たちから寄せられた絵

●この企画を掲載しているウェブサイトはこちらから  
URL [www.geocities.jp/draw\\_house](http://www.geocities.jp/draw_house)

※新しいドメインに変更することもあります。

Q.仕事のやりがいとは?

A.「この仕事は依頼があつてはじめて絵が描けます。ですが描いた絵は何かに使われます。絵を以て(もって)色んな事に役立てるのはやはり嬉しいですね。しかし自分の好きな様に描ける事はまずないので、決められた条件の中で制作するにはいつも頭を使います。」

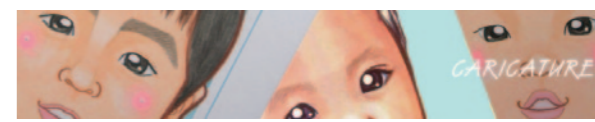


渡邊さんの最近のお仕事。今年の能登の七尾港祭りの、イメージイラストです。ポスターやうちわに使われました。



渡邊さんの仕事場。仕事で制作した作品がズラリ。

渡邊さんの活動の詳細はぜひウェブサイトをご覧ください。



URL [www.kazuma-w.com](http://www.kazuma-w.com)



鎌倉で手作り雑貨店を経営・作家 南岡絵理さん(2002年卒)



南岡絵理さん

Q.卒業後はどんなお仕事をされているのですか？

A.「神奈川県鎌倉にある長谷と言う場所で、友人と一緒に手描き・手作り雑貨屋『南屋-MINAMIYA-』をやっています。」



鎌倉の長谷といえば、大仏様が鎮座する鎌倉大仏殿高徳院。国内外から多くの観光客で賑わいを見せます。お店はその近くにあつて、立地はとても良いところ。



南岡さん自作の「南屋」キャラクター

Q.仕事で嬉しかったことは？

A.「やっぱり、お客様の喜ぶ顔を見た時ですね！」

「お客様にありがとうと言ってもらえたりとか、オーダーを頂いて仕上げた商品喜んでもらえたりとか、後日『プレゼントした人が喜んでくれたよ〜』と喜びの声を聞いた時、とってもやりがいを感じます。オーダーだと特に、お客様に合ったものが作れているのか、お渡しするまで不安だったりしますが、喜んで頂けるととても幸せになれます。」

Q.学生時代で印象的だったことは？

A.「版画との出会いが私を変えてくれました。」

「私は、美術の絵画表現の中でも版画を専攻しました。もともと油絵がやりたい美術領域に入ったのですが、そこで銅版画に出会い、油彩とは別の方法で自分の世界観が生かされそうだなと思いました。いままでと違う作品が出来る面白さがありました。」

出来るまでの作業はとても根気がいるものですが、きれいに刷れた時に『やっと出会えた!!』って思えるのが嬉しかったですね。

卒業制作は銅版画と油絵で制作しました。それぞれおなじ『私』の分身みたいなものなんですけど、また違う感じで表現出来たなって思います。いろんな技法を体験出来たからこそ今があるなあと思います。」



あーと通信 No.28で紹介した卒業生・森田加奈枝さんの雑貨も販売。森田さんとは友人同士だそうです。



「南屋」がある『Booth18-M』では、他にも多くのお店が立ち並び、オンシーズンは沢山の観光客で賑わう。

Q.絵画以外で夢中になったことは？

A.「演劇の役者や舞台美術、声優もやっていました。」

「絵の他には、劇団の役者やそのお手伝い、声の役者つまり声優もしていました。演劇では大きな空間を使うので、限られた時間でどこまでどんな風につくれるかを学ぶことが出来ましたし、お芝居の役や物語の作り方、演出なども学べました。それによって美術での表現の世界も広がったと思います。」



店内の壁面や展示レイアウトは南岡さんの手によるもの。舞台経験がここでも生かされているそうです。



Tシャツ、携帯ストラップ、ヘアピン、食器、ピアス、指輪など、色んな雑貨を制作して販売しています。



お店の前でピース！

「主にTシャツなどに絵を描いたり、樹脂粘土で小物をつくったりして販売する雑貨屋さんをやっています。また、最近ではご来店頂いたお客様から声をかけてもらって全国の色々な展示販売会に参加させてもらったり、露店販売出来る各イベント(たとえばデザインフェスタとか)にも参加しています。」

【お店に関する情報】

〒248-0016 神奈川県鎌倉市長谷2-14-15 Booth18-M 内

URL <http://minamiya.moo.jp>

★江ノ電の長谷駅から大仏さんまでの道のりにあります。  
★営業時間：あさ11時～日没頃まで／水曜日定休



いっしょに楽しむ

卒業生：日本画家 秋本幸一さん(1992年卒)から、近況のお便りが届きました。

「私は、個展など企画展を中心に展覧会活動をしています。ここ最近のスタイルとしては地元(広島)発信で大阪、神戸、東京、横浜などで展覧会活動をしています。ここ5～6年は、正月に開いた地元広島での展覧会から始まり、今は関西、関東が中心ではありますが、そこから徐々に全国へと発表の場を広げていっています。」

また、地元では3年前に四季の里八千代の丘美術館の第6期入館作家に選ばれ、美術館の15棟の建物の内一つを使い年間展示(内2回の展示替え)させてもらい、一昨年には地元新聞社(中国新聞)の月例短歌の欄に月1回位の割合で1年近くの間、挿絵の依頼もあり、少しずつではありますが、ようやく地元で画家として知られるようになってきました。そして、動物(猫)を中心に描いていたお陰か、最近、某大手画商さんを通じて「家の子(ペット)描きます」での日本画の注文も入るようになり、なんとかなり細々と作家生活を続けている感じです。

今は日々の作品に追われてなかなかコンクールに出せるような大きい作品が描けていませんが、今一度、賞を目指し制作したいと思っています。」



秋本幸一さん



秋本さんの日本画作品：「子守り歌」

■2010年度 第1回コロキウム(研究会)が行われました。

宝塚キャンパス 2010.7.22(木)

宝塚キャンパスで、美術領域の中の一つの分野である美術史・美術理論を学ぶ学生を中心に、1年生のためのコロキウムが行われました。この会は、美術領域内の専攻内容や学年を越えて交流を深めつつ美術に対する視野を広げる場でもあり、毎回様々なスタイルで行われます。

1年生は入学して3か月が過ぎました。大学での授業や学生ライフは高校の時とは全く違っていますが、戸惑いながらも少しずつ慣れてきた事だと思います。そこで今回は、1年生に対し、今後のキャンパスライフの参考になるように、もっと美術領域を知ってもらう事を目的に行われました。



様々なスタイルで行われるコロキウム

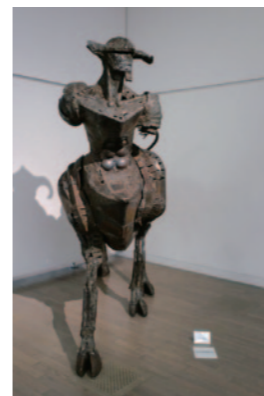


大学院生も含めた2年生以上の先輩が、1年生のためにプレゼンしました。専攻分野の特色、制作活動、学生生活、教育実習、就職活動など、上級生がどのような活動をしているのかや、今後の予定について等、分かりやすく語ってもらいました。

■第84回国展【彫刻部】

国立新美術館 2010.4.28(水)～5.10(月)

● 彫刻部奨励賞

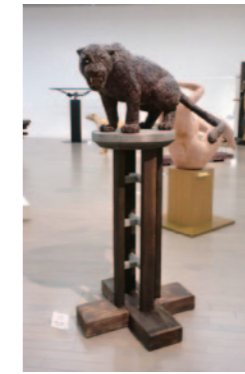


「黒金特攻」堀拓馬(修士課程修了)

● 会員出品



「五劫思惟法蔵比丘」西村公泉(教授・会員)



「月影」合田のぞむ(助教・会員)

● 入選



「黒い花びら」西村大喜(卒業生)

● 準会員  
丸山智史(修士課程修了)  
高田 治(修士課程修了)  
松尾勇祐(卒業生)  
辰己忠良(卒業生)

■古美術研修旅行 in 奈良

奈良仏像館・興福寺国宝館 2010.7.25(日)



教員と学生の記念写真



南大門の仁王像は圧巻！

7月25日(日)に奈良仏像館(旧・奈良国立博物館)と興福寺国宝館に行ってきました。例年では、ほぼ彫刻の学生だけでしたが、今回は美術史・美術理論、日本画、ゲームを学ぶ学生も参加しました。

東新館では、特別展「至宝の仏像 東大寺法華堂金剛力士特別展」が開催されていました。飛鳥時代から鎌倉時代にかけて制作されたものを中心に展示されており、まさしく至宝と呼ぶにはふさわしい内容となっています。本館の特別展「仏像修理100年」では、タイトル通り仏像修理者の100年の歴史を振り返って紹介されていますが、ただ歴史が綴られているだけではなく、国宝や重要文化財とは関係なく、信仰の対象となる仏像一つ一つに対する修理者の命をかけた慎重な扱いが伝わってくるような展覧会となっていました。